

あぐいのほたる

ふれあいの森「ホタル養殖場」 観察日誌(成長の記録)

町ホタル専門員 若山 志玄

平成十八年

七月一日 産卵箱ミズゴケに、
ヘイケボタルの卵を確認。

七月三日 一齢の幼虫を多数発見。
(六月九日の産卵箱設置後初めて孵化を確認。)

七月十八日 二齢の幼虫を確認し、
飼育トレイの分別をする。

七月二十七日 三齢の幼虫を確認。

八月九日 二齢と三齢の幼虫を、
自作の循環式飼育箱で飼育を開始。

八月二十一日 六箱の循環式飼育箱で二齢から四齢までの幼虫を
約四千六百匹確認。(一齢幼虫の飼育は継続。)

九月八日 循環式飼育箱(八箱)全てで二齢以上の幼虫を約六千八百匹確認。



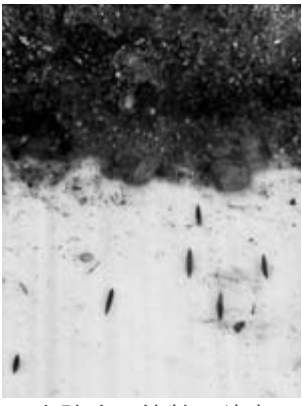
脱皮直後の幼虫

ホタルは、卵から孵化して一齢の幼虫になり、四回脱皮して五齢(最終)の幼虫になります。右の写真は

脱皮直後の五齢になった幼虫(脱皮直後は真っ白)です。

孵化は七月上旬から始まり、約一カ月で終わりますが、今は二齢から五齢までの幼虫と、上陸してさなぎになったもの、成虫になったものが混在しています。

六月で四齢と五齢の幼虫は成虫になりますが、遅いもの(二齢)三齢)は、おそらく来年まで成虫になれません。自然は種の保存のために個体の成長に差をつけます。



上陸する終齢の幼虫

幼虫は夜行性です。終齢になると、昼でもさなぎになるために上陸をします。(今年は養殖場に約四千匹放流。)約一カ月後、光る姿が魅力的な成虫になります。

タニシの提供や飼育のアドバイスなど、多くの皆様のおかげで幼虫の放流を迎えることができました。感謝・感謝。

7月1日は、あぐいほたるの日です

平成6年7月1日に阿久比町で開催した「ほたるサミットあぐい'94」。これを記念し、毎年7月1日を“あぐいほたるの日”と制定しました。



アグビー

ホタル観察の3つのポイント

1.ホタルは初夏の水辺が大好き

阿久比町の水田や川のほとりなどに多く生息するヘイケボタル。一年で最も多く見ることができる時期は、6月中旬から7月中旬までの約一カ月間です。

阿久比町でも地区によって発生の時期に違いがあります。

2.ホタルは日没1時間~2時間が一番元気

ホタルが最も元気に活動する時間は、日没後の約1時間から2時間。午後8時ごろから午後9時ごろまでが、発光するホタルの姿を確認できる時間です。ホタルの淡い光を美しく映し出す夜の闇が阿久比の町をすっぽりと包み始めたころ、町のあちらこちらで元気に飛びかうホタルを探しに、散歩気分であぐいほたるを探してみませんか。

3.ホタルの出現は、天候に左右されます

時間や場所はもちろん、当日の天候にも大きく左右されます。ホタルが最も好むのは、風がなく、蒸し暑い夜。今にも雨が降り出しそうな天候時が一番活動的になります。